



チチブ号

《私が子どもだった頃番外編》 ～飼っていたネコ～

六浦3丁目在住 高桑正敏

母が大のネコ好きだったので、ずっとネコを飼っていた。もちろん当時は近くにペット屋があるわけではなく、近所の知り合いで子ネコが生まれたらもらってくるとか、庭にやってきた子ネコを家に入れて飼い猫にしていたのである。保健所に連れて行かれる危険性があったので、飼い猫には紐の首輪をつけた。ネコは家に出入りが自由で、トイレは庭かどこかで済ましていた。餌は猫まんま（ご飯にカツオ節をまぶした）と魚の残り（骨付き）だった。

産まれた子ネコは知り合いに預けた。しかし、すべてが引き取られるわけではないので、処分せざるを得ないときがあった。祖母に連れられて、まだ目の開いていない子ネコを箱に入れ、小さな筏に乗せて侍従川に流した。そういえば、七夕のときだったか、お彼岸のときだったか、ナスに割り箸で四足をつけたものも侍従川に流していた。

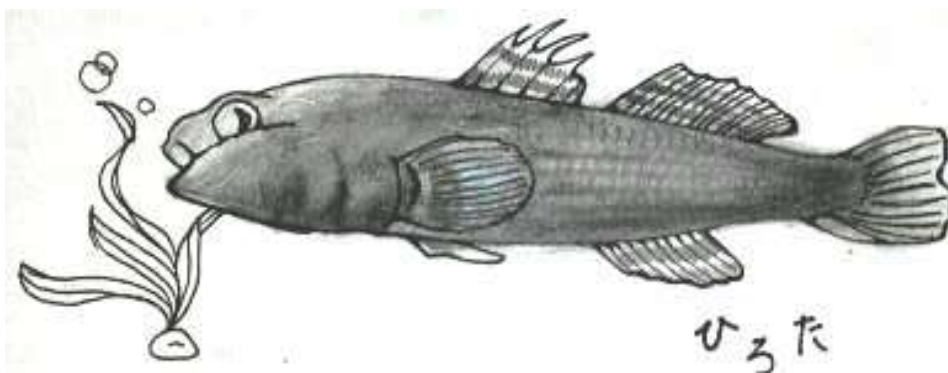
(つづく)

チチブ (知々武)

学名: *Tridentiger obscurus* 体長: ~8 cm

侍従川を代表する魚の1種で、別名「ダボハゼ」ともいいます。侍従会の会報、ダボハゼ通信は、このチチブのことです。気性が荒く水槽で飼っていると激しく喧嘩をします。侍従川では5月~7月頃にかけて石の下に産卵し、卵を守る様子が見られます。

解説: 佐野真吾



12月定例クリーンアップ

【活動報告1】

12月22日(日) 9:00~12:00 晴れ 11℃

大道橋~山王橋間(草刈)、源流域~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、村田章夫、角田繁、石塚正夫、高橋のりみ、寺尾勝廣、高橋一太、今井康祥、今井翔太(小2)、佐野真吾、深沢大地(中1)、細川一雄(計15名)

すっかり冬らしくなり、厳しい寒さと北風が吹いていた数日が嘘のような穏やかな当日でした。源流域から大道橋間の清掃は前日に済ませ、今月からは中流域の作業を開始します。

すっかり草も枯れ、虫たちもいなくなった川に入り大道橋~山王橋間の草刈り作業を行いました。また、子供達は佐野さんと一緒に大道東橋~二の橋間の清掃作業を、魚を採りながら行ってもらいました(10cm位のクサガメを捕まえました)。

治水事務所の草刈り作業の時に残しておいてもらったマコモやガマの草がすっかり枯れていて、しかも倒れていましたので鎌が入らず苦労しました。最後には鎌を上から振り下ろしましたが、下の石に当たってカンカンと音がする始末です。鎌の刃が大分欠けてのではないかと思います。

本来は草が枯れる前に作業を行うのがベターだと思いますが上流域の作業がなかなかいかどらなため、今年はお遅れてしまいました。来年度は上流域の草刈り作業の一部を金沢土木に依頼し又作業区間を短縮する事を考えています(補助金は減りませんが)。

途中休憩を入れて作業を再開すると下流から子供達が上がってきました。草も軽くなっていて作業がはかどりましたが山王橋迄で作業を終了しました。



上流域に落ちていたラジエータとカーペット。他にブルーシートが2枚(3m×3m、1.8m×1.8m)



道頓堀裏のよう壁上の蛍光灯の破片(上から落ちて割れた?)と里の橋下の子供用漫画本



加倉橋下流の作業



県営住宅裏の作業

作業が終わる頃、大道町内会の人たちが待従会と共同で借りている県営住宅跡地の一部の草刈り作業を始めました。

本来ならば草刈り作業を一緒にしなければいけなかったのですが、当日は草刈りグループの忘年会の予定がありましたので、申し訳ありませんが手伝わずに解散させていただきました。

今回で今年のクリーンアップ作業は終了いたしました。暑い夏、寒い冬にも関わらず参加していただいた皆様には厚くお礼を申し上げます。来年も宜しくお願い申し上げます。



刈り取った草を擁壁に立てかけておきます



回収した 10 袋分のゴミ

<臨時作業> 大道小学校の 5 年生が大道東橋下流の葦を刈り取る際の応援依頼があり、細川、村田、西澤の 3 名が 1 月 10 日(金)に応援に駆けつけました。当日は午後 1 時過ぎに雪がちらつくなど天候不順でしたが、午後 1 時 30 分から少し遅れてスタートしました。1 時限の 45 分間の作業でしたが、川に下りるのに時間がかかり実際の作業は 30 分程度になってしまいました。又、葦舟を作らないため、必要とする葦も 7 束程度でしたので、葦原の 4 分の 1 程度しか刈り取れませんでした。残った葦は県営住宅跡地に置いて金沢土木に回収してもらうことになりました。長年続けてきた葦舟作りが途絶えてしまったのは大変残念な事です。

作業終了後、外川さんにトラックを出してもらい、昨年刈り取った草の回収作業を行いました。山王橋～二の橋間、第二山王橋～大道橋間の草と大道橋上流の草を半分回収して、作業を終わりました。残りの里の橋の草は次回に引き上げることにしました。



刈り取った葦と、回収した昨年刈り取った草

トンボ池に氷が張る寒い朝、親子連れを含め、15名が大道小学校に集合しました。まずは侍従川源流の森へ、かご作りに必要なつるを採取しに向かいました。20分も歩くと目的地に到着。山田さんと寺尾さんのご指導のもと、採取スタート。



つるは土の上をはうものもあれば、木の幹にからみつくものもありました。よくしなる太さが均一なものを選びとって巻いていきました。ここではオオツヅラフジやアケビなどが見つかりました。つるは幹に絡み付き、成長を妨げてしまうので、今回は森林保護も兼ねての活動です。1時間半ほど採取し、たっぷり採ったつるを大道小学校まで大切に持ち帰りました。



昼食後、コミュニティハウスにて、かごづくりがスタート。縦芯(編む際に骨組みとなるつる)と編み芯(編んでいく長いつる)を選びました。縦芯は太さの揃っているものを、編み芯は細くしなるものを選ぶようにしました。山田さんにご指導頂きながら、思い思いのかごを編みました。編み出しは難しく、手間取っていた子供たちも形になってくると夢中で編んでいました。



それぞれ味わいのあるものが完成。何故か子供達は頭に被っていました(笑)。

かごは古くから人の生活に密着してきたもので、地域で豊富に採取出来る材料を用いて作られてきました。先人の知恵に触れた一時でした。



1月定例クリーンアップ

【活動報告3】

1月26日(日) 9:00~12:00 晴れ 13℃

長島橋~山王橋(草刈)、源流域~大道東橋(清掃)

細川一雄

参加者：西澤博厚、八木場紀元、村田章夫、長野政治、角田繁、関場俊子、外川忠志、今井康祥、今井翔太(小2)、細川一雄(計10名)

平成26年最初のクリーンアップ作業は、草刈りのパワーを分散させないように上流域~大道橋間の清掃作業は事前に行っておき(プロムナードの道が綺麗に草刈りが行われていました)、クリーンアップ当日は、全員そろって中流域で作業を行いました。

当日は寒の内というのに春を思わせる暖かい1日で、作業をしていると久しぶりに汗をかいてしまいました。草が枯れて倒れているのと、夜中に雨が降ったため、草が濡れて土にへばりついていて、とても作業がやり難い状態でした。また、草が重なっているので根っこがを見つけにくく腰に負担が掛かりとても辛い作業となりました。30分毎に休憩を取るようにしましたが、上流と違って腰を下ろせる場所が無く、立ったままでの休憩となり、早々に作業を再開しました。

外川さんがトラックを出してくれましたので、最初に上流域の草をトラック2杯分回収し、その後長島橋から刈り草の引き揚げ作業を行いました。雨に濡れた重たい草を一人でロープで引っ張ってくれました。また、長野さんが自転車で素早く移動し色々と作業の指示をしてくれて大変助かりました。今井さん親子はゴミを拾いながら魚とりを楽しんでもらいました。

12時頃に作業を終了し、久しぶりにゴミと草をすべて回収でき充実感を覚えました。

今回上流域の清掃作業中に気になったことがありますので報告させていただきます。

① 朝比奈橋の下に子供が遊び場を作っているような形跡がありました。橋の下の配管にロープを掛けてブランコのようにしている。流れをせきとめ魚とりの罟



プロムナード(綺麗になっている)



長島橋下の草刈り
(皆さん腰をかがめて大変です)



刈り取った草にロープを掛けて引き上げます



朝比奈橋下の状況

の様な物を作っている。

② お好み焼き「道頓堀」の下に多数のタバコの吸い殻（火が点いたまま捨てられた様子）があります。従業員が休憩時に川の横の休憩所でタバコを吸ってそのまま投げ捨てているのか？

③ 横浜屋横の「西大道バス停」の下に、同じ様に火が点いたまま捨てられたタバコの吸い殻が多数ありました。その場所は草が枯れて堆積しているので間違えると火がついて火事になる虞があります。

④ 里の橋の下は、いつも多くのゴミがあり、清掃作業意欲を消失させる状況です。

以上の内容はいつもゴミの回収をお願いしている区政推進課の田森さんに情報提供という事で連絡しておきました。



相変わらず多い里野橋下のゴミ



刈り取った草と回収したゴミ
(11袋分)

2月定例クリーンアップ

【活動報告4】

2月23日（日） 9:00～12:00 晴れ 9℃

泥牛橋周辺（草刈）、金の橋～大道東橋（清掃）

細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、八木場紀元、角田繁、関場俊子、山田陽治、今井康祥、今井幸子、今井翔太（小2）、今井はるか（幼稚園）、鳥越昌三、鳥越典子、鳥越珠貴（小2）、鳥越龍、深沢大地（中1）、片岡生一（小5）、小野田こうすけ（小5）、高橋一太、細川一雄（計20名）

源流域は大雪の影響で木が根こそぎ倒されて道を塞いでいました。また、木が根っこごと倒れた際、周りの土を崩してしまったため、崖崩れも発生していました。遊歩道と川の中には大きな岩が転がっていました。このような状況から源流域での作業は危険と判断し中止しました。横浜市に連絡し防災工事が終わるまで作業は当分出来ないと考えられます。

耕地橋の下には相変わらず、吸殻が入っているペットボトルが多数捨てられていました。ペットボトルに水を入れて灰皿代わりにしているようです。歩きながら煙草を吸って吸殻をペットボトルに入れるのは難しいので近



大雪で倒れた木と岩



くの人が投げているのか？ どうもそんな気がします。ポスターを作っただけではどうも効果が無いようです。更に、ここで捨てられ流されたと思われる吸殻入りのペットボトルは下流域でも多く見つかりました。

また、大道橋上流では生ゴミ（大量のお米）や無分別のゴミが入ったコンビニ袋が捨てられていました。地藏前橋下には大きなビニールシート。西大道バス停下には火がついたまま捨てられたと思われる多数の吸殻。里野橋下左岸には川沿いの家から捨てられたと思われる多数の吸殻。何時までたっても状況は改善されず、逆に酷くなっていると思われるこの頃です。黙々とゴミ拾いをするのか、何か行動を起こすべきか？

千歳園から川の中に入ってゴミを回収しながら下流に向かうグループと、上の道を通って大道東橋に向かうグループと分かれて作業を開始しました。子供達は網とゴミ袋を持って川の中を下流に向かいます。大道小学校の5年生が刈り残した泥牛橋下の葦を刈り取ります。左岸と右岸に分かれてカラカラに乾いた葦を刈り取ります。先週の大雪で大部分の葦が倒れていて茎を立てながら鎌で切っていく作業は思った以上に大変でした。ゴミ拾い終わった子供達に葦を運んでもらい予想以上に作業がはかどります。



耕地橋下のペットボトル中には飲み物と吸い殻



耕地橋下、ペットボトルの中に入っていた吸い殻



地藏橋下のビニールシート

大道橋上流、チャイルドシートのカバー？



青木橋上流の支流川、造成工事業者の物



お好み焼き 道頓堀店

地藏橋横左岸、今にも川に落ちそうなゴミ



ゴミを拾いながら下流に



青木橋上流の橋の架け替え工事現場



大道橋上流右岸角、大きなコンビニ袋に入ったゴミ

今回はあいにく外川さんの軽トラックが手配できませんでしたので束ねた葦を護岸に立て掛けて行きます。十分育った葦は2m以上にもなり護岸よりも上になるものも多くありました。2月も後半になると陽が強くなっていて、しばらく作業を行うと汗ばむ位でした。休みを適宜取りながら11時40分頃に作業を終了し千寿園で子供達にジュースとお菓子、大人たちは喉を潤おす飲み物を飲んで解散しました。

大道橋上流のゴミ



泥牛橋

大道東橋下、刈り取った葦と回収したゴミを纏める



泥牛橋

大道東橋、刈り取った葦の束を立て掛ける

泥牛橋下、草刈り後、葦を束ねて護岸に立て掛ける



泥牛橋下、葦を刈り取った後

土嚢14袋分



テントの幕?



朝夷奈の森通信 ～森の忍者より～ 飯村優介

2月の2度の大雪は原流の山でさらに深く積りました。8日は降雪中気温が大道でも氷点下1℃、軽い雪質と強風で吹き溜まりが目立ち、侍従川に薄氷も見られました。



2/8 侍従川冰雪

14日は平地1℃、朝比奈の標高100m以上0℃以下で昼過ぎまで、雪強まり午後は大道も0℃に。山は初めから積り増え、15日雨に変わるのも寒気の通り道になり遅れました。15日昼で朝比奈頂上80cmありました。天園、大丸山、果樹園など標高150m前後の場所は最大時1mの可能性でした。



2/14 雪樹林

残雪の中も天然シイタケは見事に育ちます。3月初めは湿地でヤマアカガエルの卵塊があり、ホトケドジョウも産卵のきざし。フキノトウも旬でした。



残雪シイタケ



ヤマアカガエル卵塊



フキノトウ

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ ホルストガエル ～ (アカガエル科)

学名：*Rana holusti* 体長：13センチ

分布：沖縄本島北部

沖縄県に生息するカエルでは最大種で、沖縄本島北部ヤンバルの森だけに生息しています。その大きな体から動きはとても鈍そうに見えますが、実は中縄のカエルでは一番高く、遠くへ飛び跳ねることができます。それはときにガードレールを飛び越すほどの凄まじさです。



季節を問わず、真夜中のヤンバルの溪流では彼らのグウォン！グウォン！という勇ましい大きな声が響き渡ります。



幼体

監修：熊井（沖縄在住）

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～高校時代の私～

私が高校に入学したのは2003年です。虫とりが生きがいであった私は、将来も虫の道に進みたいと思い東京農業大学の付属高校に進学しました。そして虫に関してさらに磨きかけた高校3年間を送る予定でした。しかし、意外にも高校1年の終わり頃から高校3年まではまったく虫から、そして侍従会からも離れた生活を送ったのでした。

東京農業大学第一高等学校は農大の付属高校とはいえ、農業に関する授業があるわけではなく極めて普通の一般的な高等学校です。また、東京の世田谷にあり、品の良い住宅街の中にあって最初は驚きました。

私は今まで自分が横浜に住んでいる都会の人間だと思っていました。しかし、実際横浜とはいえ、鎌倉・逗子・横須賀に極めて近い横浜の端の端である侍従川流域で育ち、中学までは一人で電車も乗ったことのないような世間知らずでした。そんな私が高校入学から突然毎日満員電車に揺られながら2時間半もかけて華やかな東京の高校に通い、東京のちょっとおしゃれな友達と出会い、とにかく新鮮な毎日でした。

高校時代につるんでいた友達は、ちょっと大人ぶって停学処分を受けてしまうようなメンバーで、そんな友達たちとつるんで勉強なんか一切せずに毎日夜まで本当に遊びまわりました。また、この頃私は本格的に反抗期という時期を向かえていたようで、家では親と毎日喧嘩をし、進学を決めた一番の理由であったはずの生物部も入学して半年足らずで辞めてしまい、顧問兼担任の先生にもあからさまに反抗的な態度をとってしまいました。

そんな状態だから虫からも遠ざかってしまい、侍従会にも行かなくなってしまったのでした。しかし、その間山田さんだけは絶えず連絡をくれました。山田さんは侍従会に来てほしいとは言いませんでした。二人で会って食事をしたり語り合う機会は増えました。何年かして山田さんには、「当時サノシンが侍従会からいなくならないように繋ぎとめようとしたよ！」と言われました。今思うと本当にありがたいです。

さて、高校3年になり、学校の雰囲気もガラッと受験モードになりました。そして、つるんでいる友達にも「佐野？ お前は進路どうする？」と聞かれるようになりました。しかし、私はblankがあるとはいえ、自分には虫しかないと思っていたので、大学に入ってからちゃんと虫に戻るつもりでいました。

そんな話をすると友達たちは「そうかおまえ虫キヤラだもんな！ そいうや佐野は、タバコとか吸わなかったし、学校にもちゃんと来てたし俺たちの中



では真面目だったかもな！ やりたいこと決まっていいいじゃん！ 虫やりに大学行けよ！」と言われました。高校時代の友達はいわゆる真面目な友達ではありませんでしたが、私の虫好きを否定することもなく、私も自分は虫好きだと公言していました。

彼らと過ごした高校時代は中学まで世間知らずで虫しか興味のなかった私の世界を広げてくれましたし、何より一緒にいて気が楽で「高校時代は本当に楽しかった！」と言える思い出がたくさんできました。高校時代の友達とは今でも仲が良く時々集まって飲み会をやっています。

こうして私は東海大学のAO入試を受けて秋には合格が決まりました。農大の付属高校にいながら農大を志願しなかったのは当時の反抗期によるものでしたが、東海大学では人生に大きな影響を与えてくださった恩師や仲間たちと出会えることになるので結果オーライです。

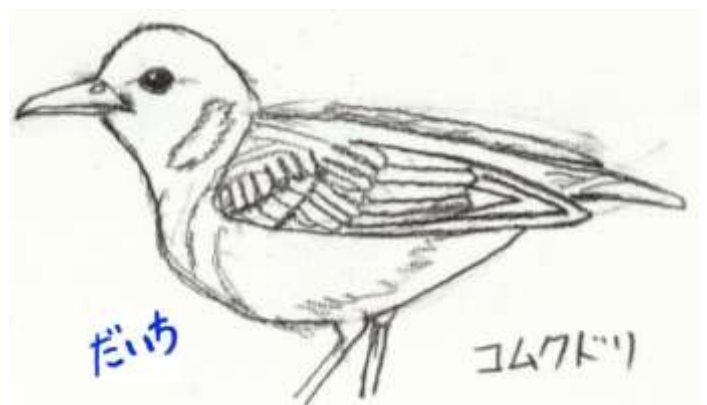
高校3年生の冬、私は皆より早く大学が決まってしまったので遊んでくれる人もいなくて久しぶりに侍従会を訪れました。久しぶりの侍従会にはもう当時の仲間たちはいませんでした。当時の仲間たちは私より先輩だったので、皆とっくに高校を卒業して大学に行ったり就職をしたりしていて、活動に来ているのは歳の離れた初めて会う子たちの世代になっていました。

しかし、山田さんや竹内さん、河本さん、長橋さん、岡さん、徳丸さん(現在鹿児島在住)など事務局メンバーのオジサンたち(山田さんはまだ当時はお兄さん？笑)は私の復帰を喜んでくれましたし、いつのまにか山田さんとは週に何回も食事をするようになりました。そして高校卒業間近のある日、山田さんに「サノシン！事務局のメンバーに入ってよ！」と言われたのでした。「そうか自分ももう参加者ではなくて運営する側の年齢なんだ」と思いました。

侍従会に復帰した2006年の早春、私はいつのまにか咲いている梅の花を見て自分にショックを受けました。梅の花が咲くまで春のおとずれを気付けなくなってしまっていた私は、ずいぶん長い間自然と離れていたような気がしたのです。やっぱりそんな自分ではダメだと強く思いました。こうして私は侍従会の運営側の立場として積極的に参加し活動していくことになるのです。

※今回で25回目を向かえる私の連載ですが次回からはいよいよ後半の大学生編です☆

『佐野真吾が語る侍従会の思い出』つづく





虫のきょういく座談会

～神秘なるウニョウニョ～



これは2013年(去年)の2月14日の話である。世間はバレンタインデーで賑わう中、佐野は山田氏と二人で身も心も凍える夜の侍従川にたたずんでいた。

山田「どう？ 出てる？」

佐野「いや…出てないです。」

山田「…。寒い…」

その日二人は“バチヌケ”を見に来たのである。“バチヌケ”とは、釣りの餌としても有名なゴカイの仲間(多毛類)が産卵のため川底から這い出て大量に水面を漂う現象を言う。バチ=ゴカイがヌケ=抜けるという意味だ。大潮の数日後の夜、潮が満ちている時にバチヌケは起こるそうなのだ。しかし…

佐野「今日は出ないんですかね…」

山田「う～む…寒いね…」

待ってもバチヌケが起こる様子はなく早くも二人は意気消沈であった。そこで場所を変えて、隣の鷹取川(横須賀市)に行ってみることにした。

山田「鷹取川は侍従川より良くなさそうじゃない？ どう？ 出てる？」

佐野「あれ？ あれそうじゃないですか!？」

山田「え？ まじ？ どこどこ!？」

河口の橋の上からライトを照らすと、水面をウニョウニョと何か漂っているのが見えた。バチヌケの始まりである！ しかし、橋から水面までの距離があり、写真を撮ってもよく分からなかった。

佐野「遠くてよく見えませんね。」

山田「俺にはゴミが浮いているようにしか見えん…」

佐野「もう一回侍従川に戻って、河口から遡りながら探してみませんか？」

山田「そうしよう！ 鷹取川で見られて侍従川で見られぬというのは悔しいしね！」

こうして二人は侍従川へのこだわりを胸に、なんとかもっと見やすい所を探しに侍従川の新川橋に向かった。

佐野「おお！！ 出てます出ます！！ やっぱ侍従川にもいるじゃないですか☆」

山田「さすが侍従川クオリティ☆ 鷹取川よりたくさんいるね☆」

バチ抜けの様子 ⇒



どうやらバチヌケの出現は時間帯によるものだったようだ。そして二人はさらに遡り、新川橋から泥牛橋の間でバチヌケを確認した。中でも特に多かったのは潮見橋付近である。佐野「おお！！これは凄い！かなり高密度でバチヌケしてますね！！」

今回観察されたゴカイはヤマトカワゴカイという種類である。バチヌケという現象は専門的には生殖群永といい、普段住んでいる泥の中から大群で浮上して放卵放精するのである。青や黄色の光沢を帯びたゴカイが大量にウニヨウニヨ漂う様子は美しく圧巻と言わざるをえない。

山田「まさに命の神秘だねえ！生命力を感じるよ！」

佐野「神秘的なるウニヨウニヨですね！寒い中見に来てよかったですね☆」

聖なるバレンタインデーの夜、怪しい成人男性2名は神秘的なるウニヨウニヨの感動と喜びを共有し合ったのである。そしてテンションの上がった二人はさらに上流に向かい、諏訪の橋付近(ココスの前)までやって来て、そこで一人の女性に話しかけられた。

女性「あの？…何やってるんですか？何かいるんですか？」

聖なる夜に怪しい男二人がニヤニヤしながら川を覗いている様子を滑稽に思ったのだろうか。しかしテンションの上がっていた私は、この喜びをその女性とも共有したくて川にライトを照らしてルンルンで返答した。

佐野「見てください☆バチヌケです！！ほら！！☆」

女性「！？…うげっ！ナニこれ！？キモチワル！！」

佐野「ゴカイの産卵ですよ！☆ほらよく見ると青とか黄色に光って…」

女性「いやいやいやもういいです！結構です！失礼しました！！」

女性にはドン引きされて逃げられたのであった…ちーん…。バチヌケを見て神秘と幸福を感じられなかったあの女性はきっと心を病んでいるに違いない…。佐野はそう思ったのであった。笑

トピックス

- 1/25(土) CNAC (海に学ぶ体験活動協議会) 第8回全国フォーラム「よこはま発！海辺の環境教育 -人と海をつなぐ-」 山田が事例報告とパネラーとして、侍従川の取り組みを発表
- 2/2(日) 横浜の水辺と緑を考える子ども会議実行委員会 1回目か横溝屋敷で開催。実行委員長に深沢、副実行委員長に金澤 (深沢、金澤、片岡、高橋、島村、山田が参加)
- 3/2(日) 横浜の水辺と緑を考える子ども会議実行委員会 2回目か獅子ヶ谷小学校で開催。(長崎、金澤、片岡、高橋、山田が参加)
- 3/5(水) バチ抜け観察会が雨天中止



だより

校庭整備が完了し、正門前には花壇が！

12月から行われていた校庭改修工事ですが、3月14日（金）に工事が完了しました。また校庭に子どもたちが元気に遊ぶ声が戻ってきました。今回の工事で、正門前に花壇が新たに設置されました。整備や管理は地域ボランティアの方々の協力を得て、色とりどりの植物を植える予定です。大道小学校に来られた際には、是非ご覧ください。



育てたお米を、おにぎりにして食べよう！

2月27日（木）に5年生が1年間学校の田んぼで育ててきたお米を炊飯し、おにぎりとして食べました。むかし資料館にあるお釜を使って炊きましたが、火加減が難しく、焦げ目のついたご飯になりました。子どもたちは残念そうな顔をしていましたが、ほんの少し食べると「こげっはいけど…おいしい！」と言って自分たちで作ったおにぎりを食べていました。



侍従川定例調査報告 学生部

12月22日(日)

調査範囲：大道東橋～二の橋

生き物：アオサギ(1※目撃)、コサギ(1※目撃)、カルガモ(15※目撃)、クサガメ(1)、チチブ(多数)、アゴハゼ(大道東橋で1個体※下流域では普通だが中流域では初確認)、ウキゴリ(二の橋付近で1個体)、スミウキゴリ(多数)、シマヨシノボリ(5)、メダカ(10)、テナガエビ(5)、ミゾレヌマエビ(多数)、コシボソヤンマ幼虫(2)、ヤマサナエ幼虫(1)、コオニヤンマ幼虫(1)

備考：9月まで普通に見られたウキゴリが10月以降激減し、それに代わるようにスミウキゴリが増加しています。

スミウキゴリは、これまで中流域では稀で、上流域・源流域で多く確認されていました。しかし、10月以降は中流域でも普通に見られるようになり、逆にウキゴリがほとんど見られなくなりました。

秋に度重なった台風を境にウキゴリとスミウキゴリが入れ変わったような印象を感じますが、それが本当に影響しているかは定かではありません。

2月23日(日) ホトケドジョウ調査

【大道中学校】

ホトケドジョウ(50)、マルタンヤンマ幼虫(2)、ヤブヤンマ幼虫(1)、ショウジョウトンボ幼虫(32)、オオシオカラトンボ幼虫(15)、ヤマトクロスジヘビトンボ幼虫(1)、ミズムシ(100以上)、カワニナ、サカマキガイ

※ホトケドジョウはすでにお腹に卵を持っている個体が多数いました。

※今までと比較してショウジョウトンボがやたら多く確認されました。

【大道中裏山】

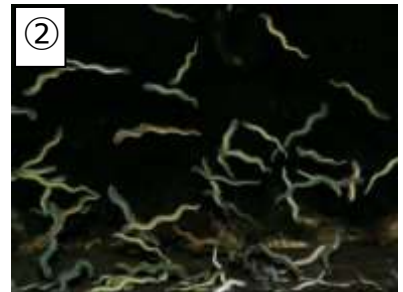
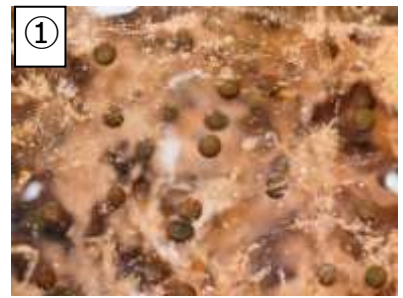
オオミドリシジミ卵

※オオミドリシジミは2008年以來の久しぶりの発見でした。



生き物発見記録

- 1/19(日) 野島にてオナガガモ、ホシハジロ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オオバンを確認 (佐野)
- 2/8(土) 侍従川流域も大雪に見舞われる。
- 2/13(木) 朝比奈小学校 ヤマアカガエルの産卵を確認 (佐野) ①
- 2/14(金) 二度目の大雪
- 2/20(木) 侍従川潮見橋付近 ヤマトカワゴカイの産卵 (バチヌケ) を確認 (山田・佐野) ②
- 3/1(土) 切り通し入口湿地 ヤマアカガエルの産卵を確認 (飯村)
- 3/4(火) 侍従川にてヤマトカワゴカイの産卵 (バチヌケ) を確認 (飯村)
- 3/10(月) 大道中学校産ホトケドジョウ6個体を朝比奈小学校ビオトープに放流 (担当者: 佐野) ③



事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆ 4月～6月の活動予定 ◆

☆定例クリーンアップ 4/27(日)、5/25(日)、6/22(日)

9時～12時 ちとせ園集合 ※雨天延期・翌週日曜

☆4/26(土) 春の息吹を味わおう! 「野草つみ」 9時～15時 大道小学校集合

午前…源流の森で草摘み 午後…ちとせ園で調理 参加費: 会員¥200、非会員¥400

要申込み: 山田 09038060055 又は yohji-y@ezweb.ne.jp まで

☆6/14(土) 会員のつどい

18時～ 大道コミュニティハウス2階

☆6/14(土) ホタル観察会

19時30分～ 大道中学校

☆5月の活動は追ってお知らせします。

■学生部の活動は別途お知らせします。

《編集後記》 今回は満を持してのチチブ (ダボハゼ) 号です。イラストは初登場の廣田さんです。(MK)

活動の詳細 (持ち物など) は、ホームページをご覧ください。

<http://ji.jyukai.web.fc2.com/>

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局

金沢区六浦5-23-26

長橋 輝明

TEL&FAX: 781-4042

e-mail: jr-nagahashi@seaple.icc.ne.jp